

離島地域の空間利用特性と島民の生活行動にみる居住環境満足度の要因(その1)

正会員 ○甲斐 一樹* 姫野 由香** 佐藤 誠治***
青柳 直希* 岡本 大*離島地域 空間利用特性 生活行動
居住環境満足度 施策事業 共同体

1 研究の背景と既往研究における本研究の位置づけ

周囲が海に囲まれる離島地域は、その地理的性質から基盤整備の遅れ、教育や就労の場の不足による若年層の島外流出、それに伴う出生率の低下など、多くの問題を抱えている。また1953年(昭和28年)以降は、離島振興関連四法により、本土との格差是正や島民生活の安全や向上を図るべく、さまざまな施策が行われてきた。しかし、根本的な解決には繋がっていないのが現状である¹⁾。

本研究の対象は大分県姫島村である(図1)。姫野ら²⁾は、姫島村が生活産業基盤の早期整備や自立的な地域運営の取り組み等により、多数の離島が市町村合併を行うなか、一島一村として存続していることを明らかにしている。また、共同体については、全国の離島を複数の共同体が重層的に存在する場合と、そうでない場合に大きく二分できるとされている。しかしながら、姫島村はそのどちらでもなく変遷の過渡期にあり、2011年においては、既存の共同体の枠にとらわれない共同体が組織される等の動きがみえてきた。他方、山村ら³⁾は島民の姫島村の居住環境^{註1)}に対する高い満足度を明らかにしている。



図1 姫島村の位置

2 研究の目的と方法

本研究では1の背景を受け、島民の居住環境に対する高い満足度の要因に迫るため、生活環境評価^{註2)}として行政区ごとの空間利用特性や島民の島内における生活行動の傾向を詳細に把握することを目的とする。また本報(その1)では、ヒアリング調査と文献調査により、施策事業、共同体および交流活動から姫島村の現状を明らかにする。

3 施策事業、共同体および交流活動からみる姫島村の現状

3-1 施策事業からみる姫島村の生活環境

姫島村は1区(西浦)、2区(北浦)、3区(南浦)、4区(松原)、5区(大海)、6区(金・両瀬・稲積)の6つの行政区に分けられる。行政区の位置を図2に示す。

姫島村の生活環境を社会基盤、産業、暮らし、集客サービスに関する事業^{註3)}の4つの視点から把握する(表1)。村の全体的な傾向としては、集客サービスに関する事業が2件と最小で、暮らしに関する事業が24件と最多であ

り、姫島村ではくらしに関わる事業が重点的に実施されてきたことがわかる。行政区単位でみると1、2、3、6区では1件、4件、9件、2件と姫島村全体の傾向と同様、くらしに関する事業が重点的に実施されているのに対し、4、5区では5件、3件と社会基盤事業の件数がくらしに関する事業の件数よりも多く、各行政区で行われている事業内容に違いが確認できた。総事業件数に関しては、ともに11件と3、4区が最多である。

3-2 共同体からみる姫島村の特徴

旧来から存在する共同体としては、各行政区に清掃や相互扶助から祭事に至るまで、様々な島民生活を支援する「自治会」が存在する。この共同体のあり方は長く変わっておらず、商工会や婦人会等、現在も確固とした組織体系によって運営され活動している。

姫島村には上述のような共同体は存在したものの、新たな活動や企画を創出するような動きは2000年頃までは確認できなかった。しかし、2005年の地域再生マネージャー事業前後から新たな共同体が結成され始めている。特に当該事業により結成された「はりこもう会^{註4)}」をきっかけに、島内では新たな取り組みや共同体の組織化がみられるようになった。はりこもう会自体は事業終了に伴い活動は休止したが、その後も構成メンバーのうち目的を同じくする者が集まり、女将の会や田楽の会等様々な共同体が組織されている。

以上のように、地域再生マネージャー事業をきっかけとした任意団体が活発に活動している。こうした制度が利用できた背景として、受け皿となる島民の人的ネットワークが既に存在していること、また人的ネットワークは、島民の島内における日常生活の中で行われている交流活動等に支えられていると考えることができる。

3-3 交流活動からみる姫島村の特徴

姫島村では、年間を通して様々な行事が行われており、島民の交流活動の軸となっている。またそれら行事は、



図2 行政区の位置

表1 施策事業と共同体の経年変化

行政区	事業件数(件)				年次								
	社会基盤	産業	くらし	集客	合計	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
1区	0	0	1	0	1	●1970:中央公民館建設							
2区	0	0	4	0	4	●1963:村営住宅の整備 ●1965-66:小学校の新築・改築	●1980:村民運動場の整備						●2009:旧小学校の改修工事
3区	0	2	9	0	11	●1957:国民保険診療所が開設 ●1973:幼稚園新設工事 ●1974:老人憩いの家建設 ●1980:庁舎増改築	●1981:診療所の改修・整備 □1983:農協農産物出荷所建設 ●1983:保健管理センター開設 ●1975:離島総合開発センター建設		●1991:高齢者福祉センター開設(全国初) ●1991:消防施設整備			□2003:水産加工場の整備	
4区	5	2	4	0	11	●1961,65,68:中学校増改築 ●1960,65:保育所の整備 □1965:車エド養殖場の運営開始 1959:塩田が廃止される	●1977,83:フェリーボード建造 ●1991:フェリーボード建造 ●1992:船客待合所新築		□1988:車エド養殖場完成 ●1991:フェリーボード建造 ●1992:船客待合所新築				●2009:待合所の整備
5区	3	1	0	0	4	●1972:し原処理施設建設							●2011:し原処理の投入施設の建設 ●2011:ブルーラインの岩礁工事 □2011:大海港浮橋の整備
6区	0	0	2	0	2	●1978:拍子水公園の整備	●1984:灯台園地の整備						
全区共通	8	7	5	2	22	■1957:離島振興法の適用地域に指定 ■1963-68:70:簡易水道布設、改良工事 ■1965:尾ヶケールの海底送 ■1972:フェリー-就航開始	●1983:県から医師の派遣 □1984:テボジ小制度 □1987:漁具倉庫、畜用施設建設 □1988:藻場の造成事業	■1993,95:急傾斜地崩落対策事業 □1995:漁獲設置事業2件 □1995:藻場の造成事業 ●1995:スクールバス購入 ●1997:患者輸送車購入			□2006:離島漁業再生支援事業 ○2006:地域再生でニュー事業 ○2009:地方の元気再生事業 ●2011:タクシーの交通社会実験 ●2011:村役場による巡回バスの運行		
村全体	16	12	24	2	55								

行政区	青年団	商工会	婦人会	漁業組合	消防団	農業組合
1区	○	○	○	○	○	○
2区	○	○	○	○	○	○
3区	○	○	○	○	○	○
4区	○	○	○	○	○	○
5区	○	○	○	○	○	○
6区	○	○	○	○	○	○
自治会	○	○	○	○	○	○

行政区	2006:はりこもう会	2008:娘島キッチン	2008:かんだ工房	2008:LLP「島の風」	2009:女将の会	2010:田家の会
1区	○	○	○	○	○	○
2区	○	○	○	○	○	○
3区	○	○	○	○	○	○
4区	○	○	○	○	○	○
5区	○	○	○	○	○	○
6区	○	○	○	○	○	○
自治会	○	○	○	○	○	○

凡例 ■社会基盤に関する事業 □産業に関する事業 ●くらしに関する事業 ○集客・サービスに関する事業

単に村全体の行事だけでなく、表2 盆踊り参加率

行政区	人口(人)	参加人数(人)	参加率
1区	388	100	25.8%
2区	450	100	22.2%
3区	352	100	28.4%
4区	788	200	25.4%
5区	202	150	74.3%
6区	213	125	58.7%
合計	2393	775	32.4%

行政区単位で取り組んでいるものから、行政区の中でさらに細分化された班で取り組めるものもあり、行政区の特徴を把握するうえで、姫島村の交流活動について把握することは必要不可欠であると考え。そこで本研究では、行政区ごとの「盆踊り」「船曳祭り」「村民体育大会」「ソフトボール大会」「ゲートボール大会」「デイサービス(生きがい)」及び「班の交流活動」、「構成世帯数」について資料収集とヒアリング調査^{注5)}を行い、比較、考察した。紙面の都合上、これらの行事全体の傾向として最も特徴的だった「盆踊り」の参加率について表2に示す。

村をあげた行事なども行政区単位でみると参加率に差がみられた。表2より、盆踊りの参加率においては1区～4区は22%～29%と、全体と同等もしくは低い傾向が確認できた。一方で、5区、6区は74.3%、58.7%と全体より高いという傾向が確認できた。

4 総括

本報(その1)では、施策事業、共同体および交流活動から姫島村の現状を明らかにしてきた。行政区ごとに見ると、1、2、3、6区はくらしに関する事業が重点的に実施されているが、行事参加率では1、2、3区が全体と同等もしくは低い傾向にあり、6区が全体より高い傾向にあることがわかった。それに対し、4、5区は社会基盤事業に重点が置かれているが、行事参加率では4区が全体

と同等もしくは低い傾向にあり、5区が高い傾向にあるという行政区ごとの違いがみられた。また「姫島盆踊り」、「船曳祭り」などの行政区単位で行われる行事が存在し、それら行事などの交流活動において人的ネットワークの形成の一因となり、任意団体が活発に活動することができる環境を作り出していると考えられる。

その2では、これらの交流活動や空間利用特性と居住環境満足度に関係性があるのか検証する。

【補注】

- 注1) 本論文における居住環境とは、姫島村に居住する際、満足度に影響すると考えられる周辺環境を意味する。
- 注2) 本論文における生活環境とは、基盤整備、施設立地などの定量的な側面から見た島内環境を意味する。
- 注3) 姫島村で1957年以降に実施された事業のうち、国費を用いて実施された事業のみを示す。
- 注4) 「はりこもう」とは地方の方言で「がんばろう」という意味。各団体から代表者が参加した協議会である。
- 注5) 盆踊り、船曳祭り、村民体育大会、ソフトボール大会、ゲートボール大会については、ヒアリングによって得られた区長の体感人数。

【参考文献】

- 1) 財団法人日本離島センター「島の将来を考える研究会報告書」2010/7
- 2) 姫野由香・牧田正裕「規模・基盤・産業・行政施策の経年変化にみる離島の構造特性と類型化—地方における自立的な地域運営・経営に関する研究—」平成21年度国土政策関係研究支援事業 研究成果報告書
- 3) 山村宗一郎「大分県姫島村における自立的行政施策と住民の居住環境評価に関する研究—地方における自立的な地域運営の展望—」2008
- 4) 山崎義人「島民生活の体系的把握による小島島の生活環境に関する考察—離島の人口定着と地域維持に関する研究—」日本建築学会計画系論文集 No500, pp161-168, 1997

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程 学士(工学)

**大分大学工学部福祉環境工学科助教 博士(工学)

***大分大学工学部福祉環境工学科教授 工学博士

*Graduate Student, Oita Univ.

**Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.

***Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.